

- 問1 ある農産物の都道府県別収穫量を示した統計において、第1位の県の収穫量が46万トン以上あり、第2位の県の約16万トンと比べて突出して多いという特徴が見られました。この農産物と第1位の県の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2018年 北海道公立入試 類似)
1. みかん – 和歌山県 2. りんご – 青森県 3. おとう – 山形県 4. ぶどう – 山梨県
-
- 問2 東北地方の各県で展開される特色ある農業や産業について、その背景や関連性を踏まえた説明として最も適切なものはどれか、選びなさい。 (2026年 群馬県公立入試 類似)
1. 青森県では、冷涼な気候を克服するために果樹栽培から米作りへと転換が進み、現在は西洋なしの生産量が全国の7割を超えるまでになった。 2. 山形県では、最上川流域の盆地において果樹栽培が発達し、西洋なしやさくらんぼの産地が形成されるとともに、天童市の将棋の駒のような伝統工芸も受け継がれている。 3. 秋田県や福島県は、西洋なしの生産シェアにおいて山形県を上回っており、東北地方全体の農業生産額の大部分をこの2県が占めている。 4. 東北地方では、伝統的に金属製品の製造を行う地域が多いため、果樹栽培のような一次産業よりも二次産業の割合が全国で最も高くなっている。
-
- 問3 ある県の産業統計において、人口密度が1平方キロメートルあたり約90人と低く、農業産出額（約1,732億円）のうち米の占める割合が約61%と極めて高いというデータがあります。この県で生産されている「あきたこまち」のような、産地や品質を保証して販売される米の名称を何といいますか。 (2015年 千葉県公立入試 類似)
1. 伝統野菜 2. 抑制栽培 3. 近郊農業 4. 銘柄米
-
- 問4 宮城県の稲作において、1990年代前半に「ササニシキ」から「ひとめぼれ」への急速な品種交代が起こりました。1994年には「ひとめぼれ」の作付割合が「ササニシキ」を初めて上回るようになりますが、このような品種交代が行われた背景として最も適切な理由はどれですか。 (2019年 長野県公立入試 類似)
1. 「ササニシキ」は病虫害に弱く、1990年代に県内全域で栽培が禁止されたため 2. 政府が減反政策を強化し、収穫量の多い「ひとめぼれ」のみを買い取る制度に変更したため 3. 「ひとめぼれ」が「ササニシキ」と比較して冷害に強く、かつ良食味であったため 4. 地球温暖化の影響により、宮城県の気候が冷涼な環境を好む「ササニシキ」に適さなくなったため
-
- 問5 地形図を用いて特定の地域の変容を調査する際、1998年には工場として利用されていた場所が、2025年には別の新しい建物に建て替えられている状況から読み取れる事柄として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 群馬県公立入試 類似)
1. 大規模な災害に備えるため、工場跡地のすべての建物が取り壊され、一切の建築が禁止された。 2. 食料自給率を向上させるため、工場の跡地がすべて大規模な水田や畑として整備された。 3. 産業構造の変化や都市機能の更新に伴い、工場の跡地が別の用途へと転換された。 4. 地域の歴史的な景観を後世に伝えるため、工場の建物が当時の姿のまま永久保存された。
-
- 問6 日本の諸地域のうち、東北地方の北端と北海道を隔てる津軽海峡の地理的・交通的特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2024年 福島県公立入試 類似)
1. 九州と朝鮮半島の間に位置しており、古くから大陸との文化交流や貿易の主要なルートとなってきた。 2. 本州の山口県と九州の福岡県を隔てており、本州と九州を結ぶ交通の要衝となっている。 3. 北海道の北側に位置し、サハリン（樺太）との境界をなす日本最北の海峡である。 4. 日本海と太平洋を接続する水域であり、地下には本州と北海道を繋ぐ世界的な海底トンネルが通っている。
-
- 問7 日本各地で外国人観光客の誘致（インバウンド）が進む中、秋田県において東アジア地域からの宿泊客が全体の7割を超えるほど高い割合を占めている要因として、地理的な視点から考察した説明として最も適切なものはどれですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
1. 公用語として日本語を採用している国が多く、言葉の壁による心理的な障壁が低いため 2. 日本との物理的な距離が近く、航空路線の整備などにより移動の負担が比較的小さいため 3. 赤道に近い低緯度地域に位置しており、熱帯気候の人々が冬の雪を求めて移動しやすいため 4. 時差が10時間以上ある遠方から、長期滞在を目的とした休暇利用者が多く訪れるため
-
- 問8 三陸海岸の南部など、海岸線が細かくギザギザに入り組んだ地形が、魚類の養殖に適している理由として最も適切な説明はどれか。 (2019年 広島県公立入試 類似)
1. 川から運ばれてきた土砂が堆積し、栄養分の多い平らな海底が沖合まで広がるから 2. 外海からの強い波が遮られ、湾内の波が年間を通じて穏やかに保たれるから 3. 干潮時に広い干潟が現れるため、養殖用の棚を設置する作業が容易になるから 4. 水深が非常に浅く、太陽光が海底まで届きやすいためプランクトンが急増するから
-
- 問9 1949年と2025年の山形市北部の地形図を比較した際、羽羽本線の東側地域で見られる土地利用の変化として最も適切なものはどれですか。 (2026年 京都府公立入試 類似)
1. 仙山線の新設に合わせて、駅前を中心に大規模な商業ビルが立ち並ぶようになった 2. かつては田畑が目立っていた場所に、住宅地が形成され郵便局などの公共施設が新設された 3. 高齢化社会への対応として、大規模な老人ホームや福祉施設が広範囲に建設された 4. 農業の効率化を図るため、散在していた田畑が集約され大規模な国営農場へと変化した
-
- 問10 夏の東北地方で「やませ」が発生し、稲の不作などの冷害が引き起こされる要因として、風の性質と発生源の説明を組み合わせたものとして正しいものを選びなさい。 (2019年 富山県公立入試 類似)
1. 小笠原高気圧から吹き出す、暖かく湿った風であるため 2. オホーツク海高気圧から吹き出す、冷たく湿った風であるため 3. シベリア高気圧から吹き出す、冷たく乾燥した風であるため 4. 山を越えて太平洋側に吹き降ろす、高温で乾燥した風であるため
-
- 問11 ある主要な農作物の収穫量に関する統計において、1位の新潟県と2位の北海道に次いで、3位から5位までを秋田県、山形県、福島県の3県が占めています。これらの3県が共通して属する地方名と、そこでの農業の特色を組み合わせたものとして正しいものを選びなさい。 (2017年 佐賀県公立入試 類似)
1. 中部地方に属しており、中央高地の盆地を利用した果樹栽培が盛んに行われている。 2. 東北地方に属しており、冷涼な気候や広大な平野を活かした大規模な稲作が行われている。 3. 関東地方に属しており、大消費地に近い利点を活かした近郊農業が中心となっている。 4. 九州地方に属しており、シラス台地を利用した畑作や畜産が盛んに行われている。
-
- 問12 東北地方の各県の特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。なお、県庁所在地とは、各県の行政の公署が置かれている都市を指します。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
1. 宮城県の県庁所在地は宮城市であり、県名と県庁所在地名が一致している。 2. 福島県の県庁所在地は郡山市であり、県名と県庁所在地名が異なっている。 3. 岩手県の県庁所在地は盛岡市であり、県名と県庁所在地名が異なっている。 4. 東北地方のすべての県において、県名と県庁所在地名は一致している。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 りんご - 青森県	設問の統計的特徴は、特定の県に生産が集中していることを示しています。青森県はりんごの全国生産量の約6割を占める圧倒的な産地であり、2位の長野県を大きく引き離しています。ぶどうやみかんなどの他の果実は、上位県同士の差がこれほど極端ではありません。
問2	答え 2 山形県では、最上川流域の盆地において果樹栽培が発達し、西洋なしやさくらんぼの産地が形成されるとともに、天童市の将棋の駒のような伝統工芸も受け継がれている。	山形県の農業は、最上川沿いに広がる盆地の気候的特性を活かしている点が重要です。夏が高温で昼夜の寒暖差が大きい盆地は果樹栽培に適しており、西洋なしやさくらんぼの高品質な生産を可能にしています。また、地域の歴史的背景に基づいた将棋の駒などの伝統工芸も、農業と並んで地域の特色ある産業を形作っています。
問3	答え 4 銘柄米	秋田県に代表される東北地方の日本海側では、冬の降雪がもたらす豊かな水資源を活かした稲作が非常に盛んです。消費者のニーズに応えるため、県名などを冠した「あきたこまち」のような銘柄米（ブランド米）の生産に力を入れ、農業産出額の過半数を米が占めるという、単作地帯としての特徴を持っています。
問4	答え 3 「ひとめぼれ」が「ササニシキ」と比較して冷害に強く、かつ良食味であったため	東北地方の稲作は常に冷害（やませなどによる低温）との戦いでした。「ササニシキ」は非常に人気のある品種でしたが、冷害に弱いという弱点がありました。そこで、寒さに強く、かつ味も優れた「ひとめぼれ」が開発され、普及しました。特に1993年の大冷害による不作が、翌1994年の決定的な品種交代（作付割合の逆転）を後押しする結果となりました。
問5	答え 3 産業構造の変化や都市機能の更新に伴い、工場の跡地が別の用途へと転換された。	時代が異なる地形図を比較することで、特定の土地における役割の変化を捉えることができます。例えば、仙台市の港湾付近のように、かつての工場跡地に新たな建築物が建てられている場合、それは産業の移転や老朽化、あるいはより効率的な土地の高度利用を目指す都市再開発が行われたことを示しています。このように、地形図から読み取れる情報の変化は、その地域の社会経済的な動向を反映しています。
問6	答え 4 日本海と太平洋を接続する水域であり、地下には本州と北海道を繋ぐ世界的な海底トンネルが通っている。	津軽海峡は本州（青森県）と北海道の間に位置する海域で、東側の太平洋と西側の日本海を結んでいます。この海峡を挟んだ物流や人の移動を支えるため、海底には青函トンネルが整備されており、北海道新幹線や貨物列車が走行しています。他の選択肢にある宗谷海峡は北海道とサハリンの間、関門海峡は本州と九州の間、対馬海峡は九州と朝鮮半島の間に位置する海峡です。
問7	答え 2 日本との物理的な距離が近く、航空路線の整備などにより移動の負担が比較的小ないため	観光客の移動（流動）には、出発地と目的地の間の「距離」が大きな影響を与えます。韓国、台湾、中国などの東アジア地域は日本との距離が近く、移動時間や交通コストが抑えられるため、多くの観光客が訪れる要因となります。秋田県においても、これら近隣諸国からのアクセス利便性が、宿泊者数の高いシエアに繋がっています。
問8	答え 2 外海からの強い波が遮られ、湾内の波が年間を通じて穏やかに保たれるから	複雑に入り組んだ湾内は、周囲を陸地に囲まれているため外海の影響を直接受けにくく、波が非常に静かであるという特徴があります。この穏やかな水環境は、イカダを浮かべて行うカキやホタテ、ワカメなどの養殖施設が壊れにくく、管理しやすい理想的な環境を提供しています。
問9	答え 2 かつては田畑が目立っていた場所に、住宅地が形成され郵便局などの公共施設が新設された	山形市北部の時系列的な地形図の比較では、羽羽本線の東側において、1949年当時に広がっていた田畑が2025年には住宅地へと転換されていることが確認できます。また、人々の生活を支える郵便局などの公共施設も新たに書き込まれており、典型的な都市化の進展に伴う土地利用の変化を示しています。選択肢にある「老人ホーム」や「仙山線の新設」は、この地域の具体的な変化を示す地形図の特徴とは合致しません。
問10	答え 2 オホーツク海高気圧から吹き出す、冷たく湿った風であるため	やませは、北に位置するオホーツク海高気圧が発達した際に、その縁から太平洋側へ吹き出す北東の風です。海からの湿気と冷たさを蓄えた状態で流れ込むため、東北地方の太平洋側で気温が上がらなくなり、日照時間も減少することで冷害が発生します。シベリア高気圧は冬の季節風の、小笠原高気圧は夏の蒸し暑さの源となる気圧配置です。
問11	答え 2 東北地方に属しており、冷涼な気候や広大な平野を活かした大規模な稲作が行われている。	秋田県、山形県、福島県はいずれも東北地方に位置する県です。東北地方は新潟県と並んで日本最大の米の生産地域であり、庄内平野（山形県）や秋田平野（秋田県）などの平野部を中心に、機械化された大規模な稲作が行われているのが特徴です。
問12	答え 3 岩手県の県庁所在地は盛岡市であり、県名と県庁所在地名が異なっている。	岩手県の県庁所在地は「盛岡市」であり、県名とは異なります。同様に宮城県も県名と県庁所在地名（仙台市）が異なります。一方で、福島県の県庁所在地は「福島市」であり、県内最大の人口を抱える郡山市ではありません。このように「県内で最も人口が多い都市」や「有名な都市」が必ずしも県名と同じ県庁所在地であるとは限らない点に注意が必要です。